

スポーツセクターにおける職業訓練教育および
トレーニング (VET) を発展させる
フランスの大学における現在の戦術

オリバー・ニール

クロード・バーナード・リヨン第I大学(CRIS) 助教授



要 約

我々のプレゼンテーションは、フランスの大学がスポーツの就職市場のニーズに応じて定義した戦略を扱っている。

スポーツおよびスポーツ関係セクターの雇用主が示すニーズは極めて明確である。

- 雇用主は優れたスポーツ科学の基礎トレーニングを受け、過去にスポーツの実践者、または指導者としての強力な経験を持つ若者を求めている。雇用主は学生にテストをして、合格者に企業内で最低でも1年間の補足トレーニングを受けさせる意図を持つ。
- また雇用主は、通常の能力が低い従業員に対して、さらなる教育をすることに興味を持っている。しかし、その講座はフルタイムの労働者が受けられるものでなければならない。理想的なプランとして、インターネット学習・大学での限られた短期講座・個人指導の組み合わせが推奨されている。

一方、大学（研究者）は、主に全日制の学生の「科学的教育」に関心を持っている。

大学のポジションは研究者の個人的な関心に呼応している。他の多くの国と同じく、フランスにおける学問的なキャリアの主たるものは研究活動に関連している。雇用主と交渉し、職業訓練を実施する活動は非常に時間がかかり、学問的なキャリアで成功を収めるためには不利であるとみなされている。

これらの矛盾を乗り越えるため、次の3件の提案が試みられる。

- 職業教育およびトレーニングというリスクを負う覚悟のある研究者からの、意義ある支援を求める。
- 職業訓練の補充費用をまかなうための追加財源を見つける。主に雇用主の組織からの支援がそれにあたる。
- それらの財源を用いて特別な管理スタッフを採用し、研究者の労働負担を軽くする。

こうした方向性によって、新しい高等教育およびトレーニングの方針がフランスのスポーツセクターで施行されている。しかし、トレーニングの提供者と雇用主との関係が強化されるようであれば、「学風」と学校経営団体は、強い抵抗感を持つことだろう。